

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	特色ある土曜日の授業と多彩な学校行事や部活動による人間的な成長を目指す。	・教員一人ひとりが校長の指導下、学園・学校の教育方針を理解し、教育活動の充実に努めた。入学希望生徒のレベルがあがってきたなかでも、生徒の満足する学校生活（授業・部活動・学校行事・施設等）を提供できるよう、さらに注力したい。 ・土曜講座（サタデーセミナー）も軌道に乗り、各教科で様々な取り組みが行われている。次年度は、講座内容が課題解決型・体験型のみならず、さらに地域・企業と連携し「未来創造型教育」へと発展させるよう授業の質をあげて展開したい。 ・部活動は、生徒・教員共に情熱を持って取り組んでおり、充実している。 ・教員の若返りが進むなか、本校のOJTとして立ち上げた新任研修制度を通じて、授業研究を各教科で行うことができた。 ・本校の教育方針である「学校行事や部活動」による人間的な成長については、生徒・保護者から高い評価を得ている。今後の課題としては、学校に対する「誇りや愛着心を育む」ようなはたらきかけが必要である。	4.2	・学校運営においては、分掌主任・学年主任が中心となって、課題を具体的に部署内で共有しており、次年度以降の行動目標とするのはもちろん、視点の異なる部署間でも共有課題として日々の教育活動に具体性と熱意をもってあたる。 ・土曜講座（サタデーセミナー）では、授業の質を次なる段階へ発展させるよう「未来創造型教育」を掲げたが、本年度は教員研修からスタートし教員の共通理解に努めた。次年度は授業内容を深く掘り下げ、実践できるよう各教科で内容を追求していく。 ・部活動では、勝利至上主義に陥ることなく、活動を通して人間的な成長を目指すべく、教員が生徒に対して目配りや気配りをし、適切なタイミングで必要な声かけ等の指導をしていく。学校に対する誇りや愛着心を育む点に必要なことは、生徒に帰属意識を持たせるためにも、学校と家庭と地域の連携を強化していくことが重要である。 ・引き続き、新着任教員を対象とした研修プログラムの改善と充実で、教科研修の視点も刺激して教員集団全体の成長を促す。
学習指導	基礎学力の定着と、ICTを用いた多角的アプローチにより、学び続ける生徒育成を目指す。	・1年間を通じて、落ち着いた雰囲気と授業姿勢で学習に取り組むことができた。 ・定期試験毎に上位50名を掲示し、また、成績優秀者を表彰することにより、生徒の学習意欲の向上を図ることができた。 ・電子採点システムが定着したことにより、試験実施から答案返却・確認までを円滑に行うことができた。 ・定期試験前だけでなく、日々の学習の積み重ねを定着させるための家庭学習にも習慣的に取り組ませることが本校の継続的な課題である。 ・iPadを活用した授業が主流になる中、教員の的確な指示のもと授業における効果的な活用方法および学習アプリの使い方を徹底する。iPadの授業活用については高評価を得ている。 ・進路決定上重要な学園基礎学力定着度試験(4月)に向け、①朝学習、②模擬試験（過去問利用）を実施することにより、生徒の学習意識が高まっている。また、本校生徒の結果分析を具体的に教員に示し課題意識を共有し、学習計画に反映することができた。	3.8	・東海大学付属校としての強みを生かし知育偏重の受験指導ではなく、生徒の興味関心を大切しながら学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。また内部進学上重要な学園基礎学力定着度試験において効果的な対策をさらに工夫し進める。 ・教室で学んでいる座学をより実社会でいきものにしていく「未来創造型教育」を推進し、生徒の社会活動を推奨する。 ・多様化する生徒の学力観の全体像を把握し、指導方法を工夫した「わかりやすい授業」を目指し、授業担当者はもとより、学級担任、部活動顧問が連携して生徒たちの学習に対する意識の改善を目指す。また、家庭学習も含めた自主的な学びと学習習慣の確立に取り組む。 ・教員は、研究授業や教員研修、またオンライン研修も積極的に活用して、継続的に授業力の向上を目指し努力する。 ・東海講座（放課後講習）や長期休暇中の講座で、学び直しや基礎学力の定着に結び付ける。
クラス指導	日常生活、学校行事を通じ、他者との関りを積極的に楽しめる生徒の育成を目指す。	・担任は学年主任のサポートを得ながら、生徒間の好ましい人間関係の構築に努め、より良いクラスづくりができた。 ・担任は個々の生徒にクラス・学校の一員としての自覚を促し、その役割を十分に果たさせることができた。 ・体育祭や建学祭など、各行事における意義を学年団で見だし、また学年団として行事に対しての目標を設定し、クラス個々の行事に対する意識向上へと繋げることができた。 ・日々の学校生活において、クラスで生活する時間が約8割程度を占めるため、クラスでの生活の有り様が、学校生活を始め、全ての生活に繋がっていくことを学年団およびクラス単位で伝え続けることができた。 ・人間関係のベースはクラスにあるため、クラスでの良好な人間関係が、部活動に繋がっていくことを担任を元に伝えていくことができた。	4.1	・学年主任を中心に、担任と教科担当は協力して日々の学習環境をきちんと整え管理する。また、頭髪・服装など生活面での指導も十分に行き届くよう心がける。 ・各行事における取り組みについて、生徒が行事に向かう意識は向上してきているが、教員側が常に繁忙を極めるため、行事活動を積極的に指導しているクラスと、できていないクラスがあり、その差が歴然としているため、行事内容を簡素化していく必要がある。 ・クラス内でコミュニケーション不足による人間関係のトラブルが少しずつ多くなっている状況が報告されるため、引き続き担任を中心に、クラスでの生活の意義を生徒へ説いていく必要がある。 ・清掃用具の紛失および破損が多く、物や道具の扱いについて、軽んじている状況が見受けられる。用具の管理は中高一括して高校の「生活向上委員会」が担っているが、中等部の用具破損が多く、連携して指導していく必要がある。
生活指導	挨拶と礼儀を徹底し、社会で必要とされ周囲から愛される人間の育成を目指す。	・本年度も生徒指導部として、「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境づくり」を目指し活動した。また全校集会を通じて、生徒へ校外での生活や、「教職員を校外で見かけた時に挨拶をする」ということを伝え全体を指導した。その結果、校内が活気づき、苦情件数の減少に繋がった。 ・駐輪場での紛失・遺失事案が0件であった。 ・登下校における自転車通学生のマナーについて、今年度は11件の苦情連絡が入ったが、苦情現場に赴き、現地で状況確認をおこない迅速に生徒への指導へ繋げることができた。 ・教職員は校内の設備、整備の指導を意識して取り組んだ。いつでも、どこでも常に整理・整頓された環境を継続していく。 ・生徒の頭髪、服装に関して、生徒の自覚を促すと同時に全教員で同じ基準で指導を徹底していく必要がある。	3.9	・校内、校外での品位ある言動について指導し、地域に愛される学校作りを目指していく。 ・特に、登下校における自転車通学生のマナーについても、苦情連絡が無いように生徒への指導をおこなっていく。指標として苦情件数を前年より減らしていくことを目標にする。 ・スクールバス利用者の増加に伴い、各バス停での「保護者による送迎マナーの改善」に協力をいただくことが今後の課題である。対策として、Classi・ミツシステムを用いて具体的な状況に基づき改善を呼びかける。 ・スクールバスの乗車の在り方について、バス停での「5分前待機」ができていない状況があり、今年度、生徒指導主任が多方面（安倍川駅・清水駅・静岡駅・蒲原駅・富士駅）と現地で指導にあたる回数が多かった。安心安全な運行の背景には、乗車する生徒の良好なマナーが必要不可欠であるため、必要に応じて集会等を開き、啓発していく。
進路指導	自己分析と適性、正確な情報収集により、具体的な進路決定が出来る生徒の育成を目指す。	・学年フロアや教室での掲示またはClassiなどの媒体において、また各種集会時など、様々な機会を通じて進路に係る案内・情報を随時提供し、意識の向上を促しつつ具体的な準備が周到にできるように喚起した。 ・東海大学への進学のプロットを強く押し出した指導を、学年全体の説明会および担任から各クラスにおいて実施するようにした。中でも、静岡キャンパスは、一層近く感じられるように「1 日体験プロジェクト」を実施した。 ・小論文や、自己推薦書、志望理由書、面接など、それぞれの進路（進学、就職）での試験項目に向けて、学年全体への指導および個別指導を念入りに行った。 ・高3生だけでなく各学年の段階に応じ、キャリア教育の観点に即した進路説明会の開催、また外部の業者による校内でのガイダンスの実施など多岐にわたる指導を実施した。 ・課題としては、東海大学への進学率がコロナ前の程度まで戻らないことが挙げられる。	4.2	・学園基礎学力定着度試験はもとより、他大学や専門学校受験にまで視野を広げた中で普段の授業の重要性を指導したい。 ・東海大学進学のプロットを十分に伝え（特に理科系学部・学科）、具体的に提示していく。指導と検討が十分でない中での進路選択とならないよう、早めの進路意識高揚と実際の調べ学習や進路活動を実施する。 ・「進路選択（出口指導）」ではなく、「キャリア」を意識した指導をするために、長いスパンを見通した具体的に継続的な指導を計画する。ここでは、外部業者が有する情報を有効に活用したい。 ・3年間を見通した進路ブック（ポートフォリオ的なもの）を業者と共同作成し、在学中、担任が変わっても継続した指導がしやすいようにしたい。 ・昨年度から地方キャンパスの学部・学科案内が軌道に乗ってきたので、より効率的・効果的な形で生徒に提示したい。
特別活動	部活動や生徒会活動、係などを通じて、人間的に強く、社会のリーダーになれる人間の育成を目指す。	・部活動への取り組みに対する評価は、生徒・保護者・教職員ともに共通して高い。 ・部活動を主軸とし、自主的な校内の美化・清掃を日常的な指導の中でおこなうことができた。いつでも、どこでも常に整理・整頓された環境を継続していく。 ・「試験前 部活動 活動計画」について、各顧問の先生方から提出された書類について、規定通りの「2時間以内」を遵守していただくことができた。	4.3	・「勉強・学習」「クラス活動」「部活動」の優先順位を生徒に意識づける指導をしていかなければならない。 ・部活顧問は生徒の学習環境を管理すると同時に、頭髪・服装の指導も心がけ、学年団と連携して指導することが課題である。 ・部活動時、自転車利用生徒が一般の方々へ配慮し、安心・安全かつ事故を起こさず移動するように指導を徹底する。 ・委員会活動の取り組みについては、委員会ごとの業務量に大きな差が生じている状況を改善しなければならない。
研究・研修	新人教員教育を充実し、分かる授業、考える授業を実施し、将来自ら学んでいける生徒育成を目指す。	・保護者向け公開授業を実施し多くの保護者に来校いただいた。 ・教員の授業力向上を目的に、学期末ごと授業評価アンケートを実施（生徒対象）。その授業評価アンケートの結果からベストティーチャーを決定した。全教職員の授業が魅力的になるよう、今後も研修が必要である。 ・新任教員の研修を1年かけて実施。研究授業、振り返り、他の授業見学を通して授業力向上に努めた。 ・全教職員で見合う授業研修や各教科での研究授業の実施、ファシリテーション研修や未来創造型教育について考える研修を進め、授業力を高めた。 ・総合学習の活性化を目的に、「高校現代文明論」の公開授業で他の付属高校と「探求」について研修会を行った。 ・授業態度や学級の雰囲気づくりを評価し、ベストクラス賞を授与した。	3.9	・授業や教員が魅力的であることが翔洋スタンダードとなるよう研修を積み必要がある。 ・多くの教職員が学びたいと望んでいる分野について、ゲストを招いて講話をいただき勉強したい。 ・校内研修では、教科授業を通して未来創造型教育を推進できるよう工夫ある展開を目指す。基本的な授業についてもスキルアップできる研修を打つ。 ・現在行われている研究部の研修活動を継続していく。
その他	・教育設備 ・情報発信 ・保護者対応 など	・教育設備、施設の充実は、高い評価を得ている。生徒も物を大切に扱う行動がうかがえる。 ・学校報『SHOYO Nowadays』を月1 回程度発刊し、生徒・保護者へ校内の様子を伝えた。また中等部生の活躍を紹介する「羽ばたき」を4月に発行した。P T A 広報誌「海濤」の制作では広報委員にご尽力いただいた。 ・保護者や地域に本校の取り組みを情報発信するために、SNSやHPを利用した情報発信に努めた。また保護者への連絡機能ツールとして利用しているClassiも学校全体や各学年で効果的に活用している。学校HP、Facebook、Instagramによって生徒の様子や学校の紹介を伝える記事を発信した。	4.4	・教育設備としてはボルダリング部およびIT & eスポーツ部の発足に向けて、「ボルダリング専用ウォールの設置」や「eスポーツ専用ルームの開設」および「ゲーミングPC10台設置」など新たな充実した施設が完成した。 ・校内外における生徒・教員の頑張りの、本校の特色を学校HPやSNSで「見える化」する情報発信をさらに多角的に行う。また、募集活動においても引き続きアピールしていく。HP掲載情報については、情報が滞ってしまうことがあったため、次年度は担当者を固定し、タイムリーな情報発信を目指す。